

令和7年度 京都府立清新高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>一人一人のペースを大切にしながら、社会とつながる学びを通して、自立心・主体性を身につけさせ、地域で活躍しようとする生徒を育てる。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、生徒会活動の工夫・充実 ・ICT活用や学習用端末の利用促進 ・健康増進の取組の充実 ・施設設備の充実と居場所づくりの推進 ・教職員の働き方改革の推進と長時間勤務縮減の取組の充実 ・勤労体験やインターンシップの取組の充実と地元企業との関係作り <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の力を伸ばす指導の充実 ・人権意識の高揚とルールやマナー等の徹底 ・保護者も含めた、地域への広報活動の展開 ・探究活動における関係企業等への発信 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人の自立心・主体性の育成と積極的な行動への支援・指導体制の充実 2 生徒の力を伸ばす授業づくり、指導と評価の一体化の進展 3 人権感覚の育成及びルールやマナー、モラル等の理解教育と行動につながる指導の充実 4 心身の健康の保持及び増進 5 卒業後を見据えた進路指導及びキャリア教育の推進 6 開かれた学校づくりを目指した、地域連携及び広報活動の充実

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

（A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	地域の資源や人材を生かした探究活動の一層の推進	地域おこし協力隊(地域コーディネーター)と連携し、地域の産業を踏まえた連携先・連携内容の開拓・充実を図り、地域の特性を理解し丹後の魅力を再発見する活動、郷土愛を醸成する活動を実施する。 【年間実施回数】 A：15回以上 B：13～14回 C：11～12回 D：10回未満	D C	7件の地域連携を継続し、各教科で地域人材を活用した探究活動を推進した。既存連携先との関係が定着し、学校と地域が直接調整できる体制が整ってきた。一方で、新規連携開拓や内容の発展に課題が残り、実施回数の増加には至らなかった。今後は連携分野を広げ、単年度完結にとどまらない計画的な連携体制の構築を図る。
	開かれた学校づくりを目指した広報活動の充実	授業や各種行事など、生徒の取組や学習内容、生徒の頑張りを、スピーディに紹介する。 【学校評価アンケート(保護者)肯定的評価割合】 項目：「開かれた学校づくり」に向けた広報活動の充実 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	B	学校評価アンケート肯定的評価は生徒82%保護者89%となり、学校通信やホームページを通じて行事の様子を迅速に発信できた。一方、授業内容については教科や担当者によって発信頻度に差があり、運用面での偏りが見られた。SNS活用についても体制整備が十分とは言えず、今後は各教科が無理なく発信できる体制の構築を図る。
	3系列の特性を生かした校内体制の整備(連携の強化)及び地域連携の充実	各系列の特性を生かし、栽培・加工・販売を通じた清新ブランドの商品開発等、系列を超えて連携した取組の充実を図る。奈具丘祭での発表をはじめ、それらの活動を通して地域とのさらなる連携を図る。 【系列を超えた取組の年間実施回数】 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回未満	D	奈具丘祭実行委員会を今年度も設置し、3系列の役員が協力して行事を円滑に実施し、取組を地域に発信する機会となった。一方、授業や商品開発での系列横断型の取組は実施に至らなかった。協議不足や調整体制の不明確さが要因である。来年度は、具体的政策の内容変更を含め、検討が必要である。
	学校運営協議会、PTA組織など、地域との協力体制の構築	PTA役員が積極的に会員に参加を促し、PTA行事を活発に行う。PTA行事や学校行事等を通して保護者と教職員が理解と信頼を深め、家、学校、地域が連携しながら生徒の成長を見守り支える体制作りを進める。 【取組の年間実施回数】 A：9回以上 B：8回 C：6～7回 D：5回未満	B B	PTA役員会(4回)文化祭模擬店、挨拶運動、会員研修(3回)、PTA総会(1回)を実施した。特に、総会や文化祭模擬店、挨拶運動等、多くの方が参加できるよう、PTA会員にさくら連絡網等を活用し促すことで、たくさんの方に参加していただけた。

	<p>学校運営協議会を開催し、学習活動や各種行事、PTA活動等についての意見を聞き、効果的な学校経営に活かす。</p> <p>【学校経営に対する肯定的評価の委員の人数】</p> <p>A： 7人 B： 6人 C： 5人 D： 4人以下</p>	B	<p>学校運営協議会での意見をもとに、委員と若手教職員との交流を図った。地域連携についてのご意見から、3年次四年制生徒の3学期の就業体験実習につながった。また、学校案内についてのご意見を受け、2027年度版の刷新に向け検討を始めている。</p>
教育環境の充実、整備	<p>教育環境の充実に向け、施設設備の改修に取り組むとともに、限られた施設の有効活用とICT環境の一層の充実を図る。</p> <p>【 学校評価アンケート（生徒）肯定的評価項目：学習に向けて頑張ることができる教育環境や施設・設備が整っている】</p> <p>A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満</p>	A	A <p>肯定的評価 91%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に情報処理室のPC機器等更新 ・空調を新設（オープンスペース、生徒会室、第1・2家庭実習室） <p>【今後予定】 食品加工室、農業準備室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数での授業教室整備（オープンスペース扉改修、第2家庭実習室カーテン取付） ・果樹園獣害対策フェンスの購入整備
安心、安全な教育環境の整備、維持管理	<p>危険箇所の早期発見、教職員全員での情報共有と、その改善・老朽箇所の整備を進め、安心安全な教育環境の維持管理に努める。</p> <p>【 定期的な校内巡視の実施】</p> <p>A：年12回以上 B：年10～11回 C：年8～9回 D：年8回未満</p>	B	<p>2月20日時点 10回実施（毎月点検）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇毒物の保管庫に転倒防止策を実施。 ・第二職員室床の沈みについて点検、改修。 ・階段手摺の増設。 <p>【今後予定】 南面雑草雑木伐採・北側階段降り口舗装</p>
教職員の働き方改革の推進と業務の平準化による長時間勤務の削減	<p>行事・業務を精選し、教職員の多忙感、負担感の軽減を図る。またICT活用を積極的に進めることで業務の改善も図り、時間外勤務削減を図る。</p> <p>【「時間外在校等時間 月45時間以内」人数が100%の月の数】</p> <p>A：12ヶ月 B：11ヶ月 C：10ヶ月 D：9ヶ月以下</p>	D	<p>衛生委員会を毎月1回、12回開催。毎回産業医の先生にも参加いただき、感染症に対する助言や情報を共有いただいた。衛生委員会NEWSも9回発行するなど、職場環境に対する意識の高揚に努めたが、時間外勤務時間月45時間以内人数100%の月数2ヶ月であった。</p>
防災教育の充実	<p>生徒が自分の身を守ることができるよう、適切な指導を行うとともに、教職員が生徒の身を守ることができるような研修の充実を図る。</p> <p>【 防災に関する研修（教職員・生徒）の実施回数】</p> <p>A： 7回以上 B： 5回 C： 4回 D： 3回以下</p>	C	<p>例年実施している避難訓練とその事前指導に加え、年度初めに肯定な情報の活用や防災学習を実施した。さらに昨年度に引き続き、家庭科の授業「フードデザイン」で災害食を課題として取り扱った。7月～9月には教職員が府教育委員会が実施する学校安全指導者講習会に参加し、その内容を教職員で共有した。</p>

学習支援	生徒の力を伸ばす授業づくりと指導と評価の一体化の推進による学びの充実	<p>観点別評価及びUD化授業・生徒の力を伸ばす授業づくりに関わる校内研修会を実施し、評価方法の改善、生徒の学びへの意欲向上を目指した授業改善を行う。</p> <p>【授業アンケート項目（生徒）肯定的評価割合】 項目：授業は満足できる A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	A	B	<p>年度当初と夏休みに観点別評価に関する研修を実施し、実践交流を行い、授業改善につなげた。また、5月、11月と公開授業週間を設けて授業交流も行った。また、授業アンケートの「授業は満足できる」肯定的評価が90%以上であった。</p> <p>ただ、生徒のどの力を伸ばすべきかは各教科との共通認識と焦点化が必要だと感じる。</p>
	学習用端末の活用による、情報モラル教育の推進	<p>教職員に情報提供や情報共有で、積極的にタブレット等のICT機器やアプリを活用することにより教職員自身が実践を行い、授業にも活用できるようにする。</p> <p>ICT機器を安全かつ効果的に活用するために情報モラルや情報リテラシーの指導を行う。</p> <p>【学校評価アンケート（生徒）肯定的評価割合】 項目：ICTを活用した学習活動が充実 A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満】</p>	A		<p>学校評価アンケートの肯定的評価「ICT（ロイロノート等）を活用した学習活動が充実している。」は生徒93%あり、教職員全体で授業での活用が行き届いている様子がある。</p> <p>生成AI等の活用方法に伴い、より一層の情報モラルが求められることがあるため、今後は教職員同士で交流する機会を設けて、より有効な実践を共有する。</p> <p>ただ、一部の生徒にタブレット（ゲーム）に依存する者もいるため、メリハリのある活用方法も共有する必要性を感じる。</p>
	適性や能力について生徒の自己理解 促進、ソーシャルスキルの向上	<p>1年次「産業社会と人間」における適性・能力理解やソーシャルスキルトレーニング、2年次・3・4年次での系列による学びを通して、自身の興味関心や適性の理解を促し、主体的に進路選択する姿勢を育てる。</p> <p>【卒業年次生6月末進路希望状況「未定」率】 A：0% B：5%まで C：10%まで D：10%以上</p>	D		<p>1年次は毎日10分間の「産業社会と人間」の授業でソーシャルスキルに関する授業を実施している。2年次以降は系列授業の中で体験的な活動を取り入れ、学びの深化と興味関心の拡大を図っている。</p> <p>また、卒業年次生の進路希望調査「未定」率は、31名のうち、4名が未定であり、12.9%となっている。</p>

生徒支援 安全教育	課外活動（部活動、ボランティア）を通した、生徒の社会参画意識の高揚	<p>ボランティア活動や地域連携授業への参加を推奨する。</p> <p>部活動への加入促進と同好会など生徒の主体性を活かした新しい活動の活発化を図る。</p> <p>【学校評価アンケート（生徒）肯定的評価割合】</p> <p>項目：部活動やボランティア活動は充実</p> <p>A：90%以上 B：85%以上</p> <p>C：80%以上 D：80%未満</p>	D	B	<p>学校評価アンケート肯定的評価 生徒78%・保護者74%</p> <p>陸上競技部、卓球部、ソフトテニス部が京都府代表として全国大会に出場する活躍を見せた。</p> <p>文化部においては、イラスト部が第30回丹後高校文化祭典に出展した。</p>
		<p>【ボランティア活動、地域連携授業等への参加生徒人数の総計】</p> <p>A：100人以上 B：80～99人</p> <p>C：60～79人 D：60人未満】</p>	A		<p>ボランティア78名、地域連携授業22名</p> <p>丹後100kmウルトラマラソンでは19名の生徒がボランティアスタッフとして参加し全国から参加しているランナーの力になることができた。</p> <p>上記以外のボランティア参加者は32名であった。</p>
	生徒会活動を通した、生徒の自治意識の高揚と自己有用感の醸成	<p>生徒会行事（球技大会、学校祭など）の計画・運営や、様々な企画に取り組みせることで、組織作りの大切さと達成感を学ばせる。</p> <p>【学校評価アンケート（生徒）肯定的評価割合】</p> <p>項目：学校行事は充実している</p> <p>A：90%以上 B：85%以上</p> <p>C：80%以上 D：80%未満</p>	A		<p>球技大会、学校祭ともに生徒会が主体的に企画運営に携わり、成功に導くことができた。毎週火曜日の昼休みに定例の生徒会会議を開き、日常的な活動を通して生徒会執行役員としての自覚を高めることができた。</p> <p>1学期に生徒会メンバーで昼休みに校内放送「清新ラジオ」を行い、好評であった。</p> <p>学校評価アンケート肯定的評価 生徒94%・保護者97%</p>
命の教育、人権教育の推進	<p>卒業までを見通して計画的に人権学習を進めるとともに、学校生活のあらゆる場面を通じて命を大切にする気持ちを育み、人権意識の高揚を目指す。</p> <p>【人権学習・命の教育等の年間実施回数】</p> <p>A：4回以上 B：3回</p> <p>C：2回 D：1回</p>	A		<p>全年次で人権学習を2回実施した他、人権講演会を実施した。また、全年次で性教育を実施した他、1年次は睡眠に関する講演会、生命のがん教育を実施した。</p>	

進路支援	卒業後を見据えた進路指導の推進	<p>全年次に向けて進路講演会、進路ガイダンス、分野別説明会などキャリア教育を推進する。</p> <p>【生徒事後アンケート肯定的評価割合】</p> <p>A : 80%以上 B : 75%以上</p> <p>C : 70%以上 D : 70%未満</p>	A	A	<p>全体的に生徒の肯定的評価は高く、特に企業交流会については、地元企業を知る貴重な機会となり、参加する意義があった。大学職員による講演会については、特に1年次生にとっては理解が難しい様子も見られた。今年度は地元企業による講演会を実施できなかったため、次年度は2年次生を対象に実施することが望まれる。</p>
		<p>インターンシップ等の体験活動の充実を図る。</p> <p>【就職希望の3修制2年次生・4年制3年次生の参加率（縁故を除く）】</p> <p>A : 90%以上 B : 85%以上</p> <p>C : 80%以上 D : 80%未満</p>	A	<p>就職希望の3修制2年次生・4年制3年次生の全員がインターンシップ等就業体験に参加することができた。1年次生も含め、延べ59名が参加した。4年制の生徒については、勤労体験学習先と卒業後の進路先の両方を検討する必要があるため、早い時期から働きかけていくことが重要である。</p>	
	希望進路の実現	<p>進学・就職指導を充実させ、卒業生全員の希望進路の実現を目指す。</p> <p>【卒業希望生徒の進路決定率】</p> <p>A : 100% B : 90%以上</p> <p>C : 80%以上 D : 80%未満</p>	B	<p>卒業希望生徒31名のうち、進路未決定者は2名であった（3月末現在）。大学希望者については学力試験で苦戦する様子が見られたことから、総合型や学校推薦型など、学力以外の側面も評価される選抜方法により進路先を決定することが望ましいと改めて感じた。就職希望者については、求人票から希望先を選べず応募に至らなかったケースや、様々な課題により内定に至らなかったケースも見られた。これらの点については、今年度の反省を踏まえ、来年度の指導に活かしていきたい。</p>	
教育相談 健康教育	健康教育の推進と充実	<p>生徒保健委員が主体となって健康の意識向上を図る取組を行う。</p> <p>【保健委員会の活動内容の種類（年間）】</p> <p>A : 8種類以上 B : 6回</p> <p>C : 4回 D : 3回以下</p>	A	A	<p>保健委員会ではポスター作成、保健委員会だよりの発行、奈具丘祭での展示、生活アンケートを実施した。3年次は修学旅行での健康観察を担当した。その他、高校保健ニュースの掲示やCO2モニターの設置等を日常的に担当している。（9種類）</p>

	<p>教育相談体制、特別支援教育体制の充実</p>	<p>生徒を理解・支援するために、関係分掌と相互に連携し、見立てや方向生を検討する。 遅刻欠席者の背景確認とその対応のため、担任と連携する。 対象生徒の個別の指導計画を作成・共有し、全教職員が有効活用できる仕組みを構築する。 スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等の専門性を十分に活用する。 【個別の指導計画活用率(年度末の教職員アンケート)】 A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満】</p>	A	<p>教育相談部員が年次部会に参加して生徒情報の共有を行い、必要に応じて個別の面談や支援検討会議を開いて対応している。 支援を要する生徒については個別の指導計画を作成し、学期ごとに見直しを行っている。作成及び見直しの際には地域支援センターにも来校いただき、助言を受けている。 スクールカウンセラーには生徒のカウンセリングの他に教員もコンサルティングを受けている。まなび・生活アドバイザーには2件のケースについてのアセスメントをお願いした他、学校全体のアセスメントもお願いした。 (教職員アンケートにおける個別の指導計画に効果を感じた回答95%)</p>
--	---------------------------	--	---	--

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動は、生徒が主体的に取り組み、勉強以外の活動が充実している姿が奈具丘祭や体育祭の様子でも伝っており、充実ぶりが感じ取れる。 ・広報活動で特徴的な行事や取組については、適切に地域に周知されてきており、学校の認知度は向上してきている。 ・通信制との連携が具体化し、継続して実施する流れができつつあるので、北部地域の生徒が中学校卒業後、自身の学習環境を選択していく環境整備を積極的に考えられており、評価できる。 ・進路指導では、特に就職への早い年次からのアプローチがされており、早期離職を防ぐ意味でも期待できる。 ・制服などの身だしなみ規定について、生徒が経済的に良い面、安全性も確保（地域の方に学生だから守ってもらえる）できる。学校を選ぶ選択肢にもなっているので、慎重に議論すべきである。 ・探究活動において地元の企業と連携する以外にも、府の大学などの連携も模索してほしい。探究テーマや探究報告などを委員を通じて連携していくなど、新たなつながりを作り、可能性を広げていくべきである。 ・学校外部への広報は充実してきているが、HPやInstagramの充実だけでなく、ポスターや回覧板などのアナログな手段の活用も効果的に行ってほしい。
------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校コンセプトである「つつむ・みがく・かがやく」において、「つつむ」を大切にしながら、進学講習、資格取得講習など「みがく」の取組をより一層推進し、生徒が「かがやく」ことを実感することができるようにする。 ・地域連携と広報活動について、機能的な仕組みをつくる。 ・探究活動の連携先を地元企業だけでなく、大学などの地元外の団体との連携も進める。
----------------------	---